

4 意見の概要

テーマ1：イージス・アショアの配備について

(主な賛成意見)

- ・ 設置大賛成。知事や市長は、いち早く賛成の意向を表明し、事態の收拾を図るべきである。
- ・ 国際情勢を勘案すると、イージス・アショアの秋田配備には大賛成である。
- ・ 反日運動の材料として利用され、秋田が第2の沖縄のようにならないか心配である。
- ・ 国防は、国民一人一人の義務。配備を過疎対策に大いに利用すべきである。
- ・ 県議会の冷静かつ論理的な議論と、一刻も早い配備を希望する。
- ・ 国から多くの補助金・交付金を貰いながら、国の防衛に協力できないでは、世間に通る話ではない。

(新屋演習場以外への配備等条件付き賛成意見)

- ・ 防衛省の資料訂正により航空自衛隊加茂分屯基地が適地となったが、これは男鹿の活性化につなげるチャンスである。
- ・ レーダーとミサイル本体を分けて設置することができるのではないか。
- ・ 太平山を含む日本海側寄りの700m以上の山を整備して設置する。
- ・ 秋田県内の設置には賛同するが、新屋付近にではなく男鹿三山への設置を要望する。

(主な反対意見)

- ・ 中国・北朝鮮の脅威には防衛力強化が必要と考えるが、住宅密集地への配備には反対である。
- ・ 軍備拡張になるようなイージス・アショアの配備には反対する。
- ・ 秋田市の平和を守るためにも、与党・野党を問わず超党派にて撤回に向けて議論していただきたい。
- ・ イージス・アショア設置に関して県民投票を行う。
- ・ 北朝鮮が保有するミサイルは数百発、イージス・アショアに配備されるミサイルは2基で約50発。イージス・アショアは役に立たない。
- ・ 県議会に「地上イージス配備撤回」の決議を求める。
- ・ 新屋演習場はもちろん、秋田県への配備は大変リスクが大きい。
- ・ イージス・アショアの日本配備そのものに反対する。
- ・ 先の参院選で、配備反対とする県民の意志は示された。
- ・ 今年度中に、国会衆参議長と内閣総理大臣あてに、配備反対・撤回の意見書を提出していただきたい。
- ・ 秋田県議会には、イージスアショア配備の反対と、隣国との関係改善を図り平和的手段で国を守る方策を取るよう、国に訴えていただきたい。
- ・ 防衛省が県民をバカにした態度でいるのは、県議会が態度を明確にしないからではないか。
- ・ 有事の際には、レーダー・迎撃基地が一番の攻撃対象となる。イージス・アショアの配備は平和な未来を奪うもので反対である。

(その他の意見)

- ・ 国防は国家にとっての最重要課題であり、それを地元住民だけの意見で決めることに大変違和感がある。
- ・ 現段階では、防衛省による再調査結果の説明を受けたうえで、議論、賛否判断すべきではないか。
- ・ イージス・アショアは、広大な土地の北海道や、国防上重要な能登半島に配備すべきではないか。
- ・ 平和は、9条を唱えていれば維持できるものではない。
- ・ 日本全体を守るには核兵器を1発以上作るか、イージス艦を増やしたほうが良い。
- ・ 県議会には、中立の組織、立場としてイージス配置に疑問を持つ方のお話を聞く機会を公平に設けることを望む。

テーマ2：人口減少下における教育環境などについて

(全般)

- ・ 人口減少に伴う学校の少人数化について、後ろ向きに捉えるのではなく、プラス思考で道を切り開いてほしい。
- ・ インターンシップや社会勉強の意味で、今の子どもたちに知識を広く吸収させるため、現在の日本の学校制度を6・3・3制から5・3・4制に変える。
- ・ 従来の高校の枠にとらわれない、長く秋田に留まるような独自の教育体制を構築してはどうか。
- ・ 保育園から高校まで、安全に学校へ通うことができる。子どもを守る町づくりが少子化を止める方法の一つであると思う。

(「ふるさと教育」の在り方について)

- ・ 何でも平均。水準を基にしたトップ級ではなく、オンリーワンの発想をしてもらいたい。
- ・ 地域の歴史、文化、方言をまとめて教え、観光や政治参加を結びつけることにより、秋田がより豊かになる。
- ・ ふるさと出身の偉人や立志伝中の人物、ふるさとの産業機構や現代の代表的企業などを教育題材にすることは、志や社会や地域に対する貢献などの意識を育む点で、とても良いことだと思う。

(高校の再編整備について)

- ・ インターネットを通じた遠隔教育により、近くの自治会館を高校の分校として使用する。
- ・ 量(高校の数)だけでなく質の転換や中等教育の在りようについての議論が必要と考える。

(専門高校での人材育成の在り方について)

- ・ 複数の分野での資格取得ができるようにする。
- ・ 人材育成の根底にある専門教育習得の目的の理解、応用のきく基礎学力の底上げが必要と考える。

テーマ3：洋上風力発電について

- ・ 再生可能エネルギーを入手するために、景観上の問題は許容しなければならない必要悪と感じる。
- ・ 地域住民の理解が得られていない、風車の影響による健康被害、野鳥のバードストライク、景観や自然環境の破壊、マリンレジャーの妨げ、海洋生物への影響、地域貢献にならないなどの理由から、風車建設に反対する。
- ・ 秋田県人にもやさしく、自然にもやさしい再生可能エネルギーを考えてもらいたい。
- ・ 秋田県では電力が余っており、これ以上必要はない。洋上風力発電の乱立に反対する。
- ・ 洋上風力発電は、今だけの金儲けのブームに過ぎず、これに乗るのは禍根を残す。
- ・ 洋上風力発電の問題以前に、現在の海岸沿いの風力発電機の急激な増加に大きな疑問がある。
- ・ 再エネ海域利用法における県内4箇所の促進地域は、遙か沖合ではなく、海岸からわずか1.5～4.0kmであり、関係地域住民の生活環境に密着した海域である。
- ・ 洋上風力発電への懸念を最小限にするため、環境アセスメントはもちろん、関係者への説明、試作、実証実験レベル段階でのデータ蓄積や検証の実施が必要。
- ・ 再生可能エネルギーの導入については、小水力発電を推進してほしい。

テーマ4：県内産業を元気にする方策について

- ・ 徹底してAI化を進め、旧来からの地方組み立て賃加工業を脱する。
- ・ 高付加価値ゾーンである研究開発・試作・デザイン領域を特区とし、海外からのベンチャー留学者を招聘し、世界に発信できる先端医療機器開発特区にする。
- ・ 秋田の農業を米中心から野菜づくりに方向転換し、将来的には野菜を外国に輸出する。
- ・ 超高齢社会の秋田県には、それに対応する産業を中心に育成する。
- ・ 県内全ての土地を県有地にし山林資源を効率よく活用するほか、地域通貨の発行や自然エネルギーの活用などにより、県内産業はより豊かになる。
- ・ 農業分野については、大潟村を中核地域とした先端農業（省人化、IT化など）の導入など。
- ・ 中小企業への支援については、橋梁などインフラメンテ事業に要する人材確保の支援や、航空宇宙分野での人材の確保と人材バンク制度の構築。

テーマ5：児童虐待、不登校、引きこもり対策について

- ・ 教育現場でのいじめ問題、教師による暴言・暴行・セクハラ行為についての対応が甘く、加害生徒や教師を庇う傾向にある。
- ・ 通常学級で学ぶことが困難な児童への早期対応を、県からも支援する必要性を感じた。
- ・ 児童虐待について、秋田県として独自の条例を制定し、児童相談所職員に専門教育、研修を受けさせ、かつ県独自の権限を与えないと抑止できないと思う。
- ・ 不登校や引きこもりについて、子に罪はなく、親にその責任の大半がある。
- ・ 引きこもる人への偏見を持たず、支援機関や居場所の情報提供、家庭訪問など、長くつながっていけるような支援をお願いする。